マーケット・カルテ11月号［執筆時点：2026/10/21］

円安修正の条件は整うか?

月初に1ドル158円台前半でスタートしたドル円は、足元でもほぼ同水準にある。この間、中東情勢が再び緊迫化して原油価格が一段と上昇したことが、米金利の上昇や本邦貿易赤字の拡大観測を通じて円安圧力となった。一方、政府による円買い介入への警戒感が燻ったほか、中旬以降はAI投資を巡る懸念の高まりなどから内外の株価が下落し、米金利の低下やリスク回避的な円の買い戻しを通じて円高圧力となった。円安材料と円高材料が拮抗し、値動きの乏しい展開となった。

今後も年末にかけては、一進一退の推移が見込まれる。消費税減税や来年度予算などを巡って本邦の財政拡張観測が燻りやすいほか、原油高が続くことも円安要因になると見ている。米中間選挙後には、選挙を終えて原油高を許容する余地の広がった米政権がイランへの圧力を強め、中東情勢がさらに緊迫化する局面を迎える可能性が高いと見ている。FRBが年内に利上げに踏み切ることも円安を後押しするだろう。一方、160円に接近すると円買い介入への警戒感が強まり、円の下値が支えられるだろう。また、AI投資を巡る懸念が度々燻ることや、日銀が利上げでFRBに追随することも円高要因となる。このように円安・円高材料が交錯し、方向感の出にくい展開が続くと見ている。

年末以降は、来年度予算案の全容が明らかになることで財政拡張の思惑が高まりにくくなり、円安圧力の緩和に繋がると見ている。ただし、原油価格の高止まりが円の上値を抑えるため、大幅な円安修正には至らない。3カ月後の水準は1ドル156円前後と予想している。

月初に3.1%付近でスタートした長期金利は、足元では2.9%付近まで低下している。この間、原油高が金利上昇圧力となったものの、AI投資を巡る懸念の高まりを背景とするリスク回避的な国債買い圧力が上回った。

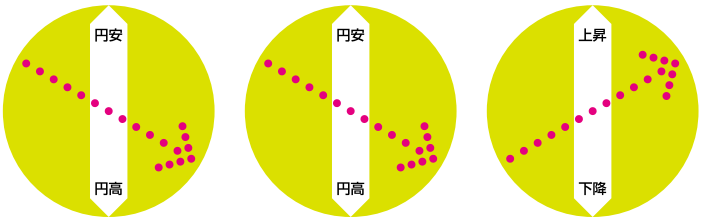
年末にかけては本邦の財政拡張観測が燻るほか、原油高や国内の物価上昇加速を受けて、金利が持ち直すと見ている。年末以降は来年度予算案の全容判明を受けて上昇が一服し、3カ月後の水準は3.0%前後になると見込んでいる。



主席エコノミスト **上野 剛志**
うえの・つよし｜tueno@nli-research.co.jp

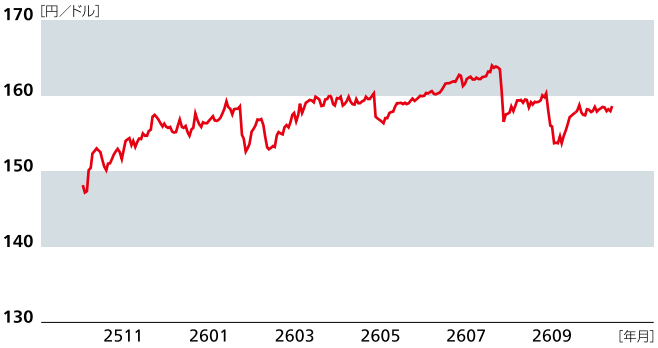
98年 日本生命保険相互会社入社
07年 日本経済研究センターへ派遣
08年 米シンクタンク The Conference Boardへ派遣
09年 ニッセイ基礎研究所

Market Karte
November 2026

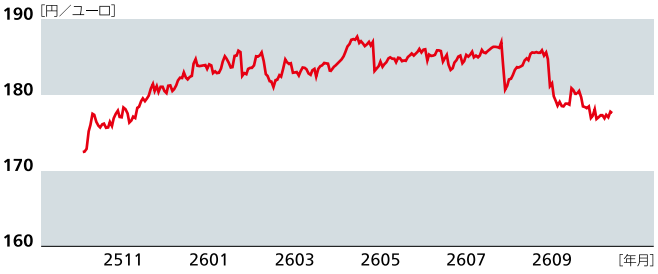


ドル円・3ヵ月後の見通し　ユーロ円・3ヵ月後の見通し　長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移［直近1年］ 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移［直近1年］ 資料:ECB



長期金利（10年国債利回り）の推移［直近1年］ 資料:日本証券業協会

